

俳句

どいなんごくじょう

土居南国城



下関市
(1898～1980)

土居南国城（本名、光頼）は、愛媛県宇和島の生まれであるが、京都帝国大学英文科卒業後、昭和四年に県立柳井中学校の英語教師として山口県に赴任し、丸半世紀を山口県で過ごす。少年時代から地元新聞の俳句欄に投稿し、後年室積徂春創刊の俳誌『ゆく春』の有力作家となり、自身も昭和二十四年に俳誌『寒虹』を創刊した。「俳句は報告でもなければ怒号でもない。耐えに耐え抜いた最後の一滴の泪でなければならぬ」と喝破する。

（岡崎木石）

【主な著作】

句集『土塊』

（土居先生還暦記念句集刊行会、昭和33年）